

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成 29 年 5 月解析分)

1 今月のトピックス

(1) マダニ等による感染症に注意しましょう！！

マダニやツツガムシの活動が活発になる春から秋にかけて、マダニ等が媒介する感染症が多く発生しています。農作業やレジャーなどで、草むらや藪に入るときには、長袖、長ズボンの着用、忌避剤の使用等によりマダニ等に咬まれないよう注意しましょう。

マダニ等が媒介する感染症に関する、潜伏期間や症状の特徴等については次表のとおりです。



フタトゲチマダニ

疾病名	潜伏期間	症 状		発生状況	
		初期症状	特 徴	H27 年	H28 年
重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	6～14 日		消化器症状：食欲不振、嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血 その他の症状：頭痛、筋肉痛、神経症状（意識障害、けいれん、こん睡）、リンパ節腫脹、呼吸器症状（咳など）、出血症状（紫斑）	10	3
日本紅斑熱	2～8 日	倦怠感 悪寒 急な発熱 (38～40℃)	発疹：発熱の後にやや遅れて、四肢や体幹部に米粒大や小豆大の紅斑（痛み・かゆみはないが手のひらにも出現） 刺し口：腹部や背部、外陰部、大腿部など隠れた部分にあることが多い（「かさぶた」を形成するが、ツツガムシの刺し口ほど大きくない）	45	36
つづが虫病	5～14 日		発疹：発熱後、顔面や体幹部に米粒大の紅斑（痛み・かゆみはない） 刺し口：臀部、外陰部、大腿部や腹部など、皮膚の柔らかい隠れた部分にあることが多い（特徴的な「かさぶた」を形成）	21	39

詳しい情報は、広島県のホームページをご覧ください。



広島県 マダニ

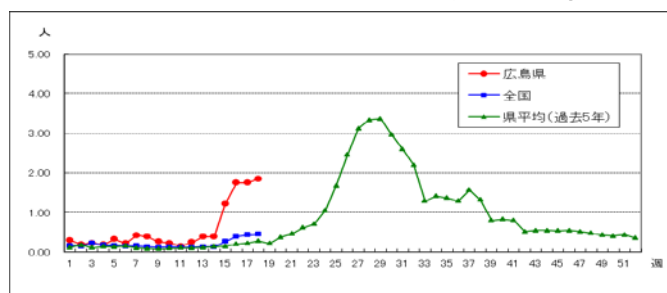
検索

(2) これからの時期に注意すべき感染症 ～手足口病～

手足口病は、口の中や、手足などに水疱性の発疹が出る、急性のウイルス感染症です。乳児・幼児を中心に、夏季に流行が見られます。

感染症発生動向調査による、県全体の定点当たり報告患者数が、3月の0.24から、4月では1.27と高くなりました。また、過去5年の同時期と比較してかなり高くなっており、注意が必要です。

定点医療機関当たりの報告患者数 (H29 広島県)



病原体	コクサッキーウイルスA16, 10型, エンテロウイルス71型
症状	感染から3～5日の潜伏期間の後に、口の中、手、足などに2～3mmの水疱性発疹が現れます。発熱は比較的軽く、高熱が続くことは通常はありません。一般的には、数日間で治癒する予後良好の感染症です。ただし、発疹の初期2～3日の症状の変化には注意が必要で、特に、元気がない、頭痛・嘔吐を伴う、高熱を伴う、発熱が2日以上続く、などが見られた場合には、かかりつけ医に受診するようにしてください。また、まれに重症化や合併症を伴う場合があり、特にエンテロウイルス71型に感染した場合は、髄膜炎、脳炎などの中枢神経系合併症を生ずる割合が高いことが明らかとなっています。
感染経路	飛沫感染, 接触感染, 経口感染
予防方法	<ul style="list-style-type: none"> 手洗いの励行が基本となります。 特に、おむつ交換をするときには、排泄物を適切に処理し、しっかり手洗いをしてください。 有効なワクチンはありません。

2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成29年4月分(平成29年4月3日～平成29年4月30日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	892	1.94	2.56	↓	11	ヘルパンギーナ	25	0.09	0.07	↑
2	RSウイルス感染症	56	0.19	0.22	↔	12	流行性耳下腺炎	151	0.52	0.43	↗
3	咽頭結膜熱	182	0.63	0.52	↗	13	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.04	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	728	2.53	1.89	→	14	流行性角結膜炎	51	0.67	0.72	↗
5	感染性胃腸炎	1,533	5.32	8.50	→	15	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
6	水痘	95	0.33	0.65	↗	16	無菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
7	手足口病	367	1.27	0.20	↑	17	マイコプラズマ肺炎	9	0.11	0.22	↘
8	伝染性紅斑	22	0.08	0.18	↘	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.01	
9	突発性発しん	130	0.45	0.52	↗	19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	19	0.23	—	↓
10	百日咳	2	0.01	0.02							

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成29年4月分(4月1日～4月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
20	性器クラミジア感染症	49	2.13	1.97	↗	24	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	65	3.10	4.48	↘
21	性器ヘルペスウイルス感染症	23	1.00	0.63	↗	25	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	6	0.29	0.81	
22	尖圭コンジローマ	10	0.43	0.55	↗	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.07	
23	淋菌感染症	19	0.83	0.69	↗						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)		
○急増疾患	手足口病	(0.24 → 1.27)
	ヘルパンギーナ	(0.03 → 0.09)
○急減疾患	インフルエンザ	(5.52 → 1.94)
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	(0.51 → 0.23)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象19疾患、月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	20～23	15～19, 24～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況 【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	18	結核(18)〔西部保健所(3), 東部保健所(1), 北部保健所(1), 広島市保健所(10), 呉市保健所(2), 福山市保健所(1)〕
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症(2)〔広島市保健所(1), 福山市保健所(1)〕
四類	8	つつが虫病(1)〔広島市保健所(1)〕, レジオネラ症(7)〔西部保健所(1), 西部東保健所(1), 東部保健所(2), 広島市保健所(2), 福山市保健所(1)〕
五類全数	18	ウイルス性肝炎(E型, A型を除く)(1)〔東部保健所(1)〕, カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(3)〔広島市保健所(1), 呉市保健所(2)〕, 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(1)〔東部保健所(1)〕, 後天性免疫不全症候群(1)〔広島市保健所(1)〕, 侵襲性肺炎球菌感染症(1)〔広島市保健所(1)〕, 梅毒(11)〔東部保健所(1), 広島市保健所(5), 呉市保健所(2), 福山市保健所(3)〕